

全酪連会報 10

2021 OCT No.673

若手後継者の本音／三宅春香さん

日本酪農見て歩紀／
松井俊治牧場(北海道阿寒郡鶴居村)

酪農トピックス／
Jミルク徳島が「こども食堂」に牛乳・乳製品を無償提供(大阪)

酪政連活動報告



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会

岡山県の南部に位置する倉敷市は、美しい町並みで有名な美観地区などがあり観光地として栄えています。その倉敷市の北西部の自然豊かな山間に三宅牧場があります。戦後の開拓で春香さんの祖父がこの地域に移住し、昭和33年に牛を1頭購入したところから始まり、現在では徐々に規模を拡大。3代目にあたる春香さんが今年、チーズ工房をオープンしました。

小さいころからの遊び場

3人兄弟の末っ子の春香さん。「小さい頃からおじいちゃんの軽トラで牛舎に連れて行ってもらって、両親の作業の真似をしていたので、その時から牛舎が遊び場という感覚でした。昔から動物全般が好きでしたが、乳牛がいる地元の農業高校へ進学するまでは家業の酪農を継ぐとは考えていませんでした。しかし、高校の3年間毎日牛の世



今回は、岡山県倉敷市三宅牧場の後継者 三宅春香さんにお話を伺いました。

話をする中で、農業の大変さや魅力、やりがいを知って、今まで家のお手伝い感覚でやっていた酪農って本当はすごい仕事なんだと感じました。また同時に、両親を尊敬する気持ちが生まれ、いずれは実家を継ぎたいなと思うようになりました。」それから春香さんは酪農を学べる大学へ進学し、家を継ぐ準備を始めました。

チーズ作りの修行へ

春香さんとチーズの出会いは高校時代にさかのぼります。「高校生の頃、香川県の牧場に研修に行った事がきっかけで、チーズ作りを教えてもらったのですが、そこでチーズの魅力にハマってしまい、いつかは自分の工房を持ちたいと思うようになりました。大学時代には、チーズ作りがしたいですと周囲に打ち明けていたら、チーズ作りをしている牧場さんと繋がりができたので、卒業してから1年間そこでお世話になりました。」

両親と3人で再スタート

実家に戻ってからは即戦力として作業へ。そこで両親のこだわりを知ったとのこと。「両親は高品質な乳生産を頑張っていて、特に体細胞には気を遣っています。令和2年の体細胞の平均は7万5千でした。なんでそんなに体細胞が低いのかと聞かれることがあります。特別なことはしていないんですよ。毎日同じ時間にきちんと

管理作業を行って、

搾乳もマニュアルに沿ってやっています。他にも、日頃の牛の観察と異常の早期発見は心がけていますし、牛を綺麗に保つために、尻尾は毎日洗っています。

我が家はつなぎ牛舎

で40頭規模なので1頭1頭見る事ができるのだと思います。私は現状維持しながら、しっかりと引き継いでいかなければと感じています。」三宅牧場は毎年おかやま酪農業協同組合から乳質表彰を受賞している他、中国生乳販連からも優良賞を受賞しています。



チーズ工房オープン

春香さんは今年、長年の夢であったチーズ工房「ハルパル」をオープンしました。チーズ作りは非常に重労働で、作業を始めると高温の作業場で5〜6時間は付きっきりになってしまいます。しかし、春香さんは我が家で生産した高品質生乳を使用してチーズを作り、消費者に食べてもらうというこの仕事にとっても魅力を感じているようです。「チーズを食べたお客さんに美味しかったと言っていたら嬉しい事があると思います。」

若手後継者の 本音

Vol.52



【経営概況】

所 属 おかやま酪農業協同組合(長恒泰治代表理事組合長)

家族構成 父、安史さん 母、加寿美さん 春香さん

飼養頭数 経産牛46頭、育成牛10頭 + 上牧牛

地域と酪農を結ぶ チーズ工房

地元の商業施設のイベントで、1週間チーズを販売したのですが、初日に買ってくださった方が美味しかったからと、最終日にもう1度来ていただき、これからはチーズを買いたいけど、どうやったら買えるの?と聞いていただけたりしました。他にも、イベントを開催した商業施設から、チーズがとても人気だったので、これから取り扱わせて頂きますと言っていたこともありました。」倉敷市では、酪農家の減少が著しいですが、このように消費者とのつながりを持って、持続可能な酪農をしていきたいと春香さんは言います。

チーズ作りの修業を積んだ春香さんでしたが、まだまだ勉強が必要なのだとか。「おいしい作り方を教えてもらって、その通りに作っても、牛乳自体の成分が微妙に違うので、同じものは絶対できないんですよ。酪農は生き物相手なので、予期せぬ事が日々起こりますけど、チーズに必要な乳酸菌も生きているので、毎日同じように作っても、

思い通りにいかないこともあります。」

また、オープンに際して苦労もありました。「倉敷市には市街化調整区域という環境保全などを目的に建物を建てるのが難しい土地があり、チーズ工房を建てる上で市との協議が必要でした。今は予約販売とオンラインショップのみで行っていますが、行く行くは美観地区で直営店を出したり、来年の春夏にはカマンベールチーズソフトを販売したいと思っています。」

取材中、ずっと笑顔の絶えなかった春香さん。今後のご活躍を期待しております。

(T・Haraguchi)

全国の若手後継者の皆さんへ一言!

今はSNSもあり、私たちの仕事を気軽に発信する機会が増えました。消費者の方へ酪農の魅力を知っていただけるよう、一緒に盛り上げていきましょう!



松井俊治牧場
北海道阿寒郡鶴居村牧場とTMRセンターの
堅実安定経営を目指して

▲ 左から技能実習生のガーさんとチャーさん、奥様の美代子さん、松井俊治さん、
トイビリカ従業員の下田さん、当牧場従業員のカミルさん

この度訪問させていただいたのは、北海道東部、阿寒郡鶴居村にあります松井俊治牧場です。鶴居村は日本最大の湿原である釧路湿原に囲まれ、タンチョウ（鶴）が住む美しい村で、酪農が基幹産業となっています。松井牧場の所属する釧路丹頂農業協同組合（武藤清隆代表理事組合長）は年間出荷乳量102,709t（令和2年度実績）となっています。

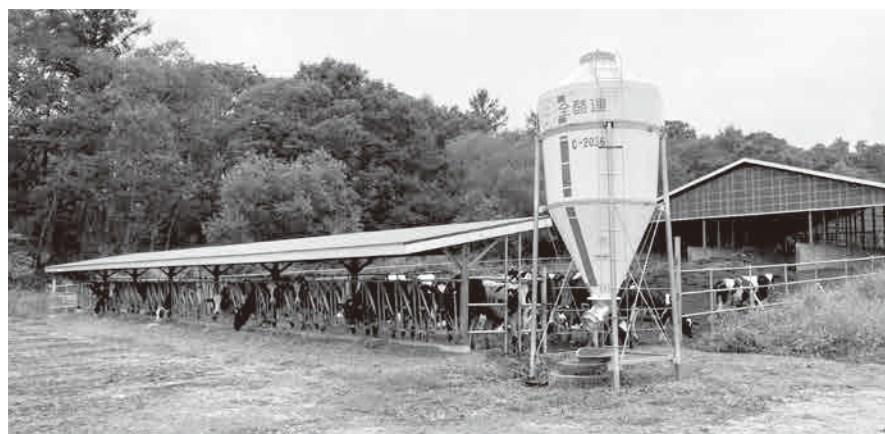
信頼できる従業員との
二人三脚兼業経営

この度お話しに伺ったのは牧場主の松井俊治さんです。松井牧場は経産牛82頭、育成牛70頭を、松井さんご夫婦、ポーランド人の従業員1名、ベトナム人の技能実習生2名で管理しています。奥様は村内の酪農家のご出身ですが、結婚当初より小学校教諭をされており平日は朝の哺乳のみ、松井さんご自身も鶴居村議会の議員を務められてからは平

日朝晩の搾乳作業のほか、日中は議会の仕事をされています。酪農家でありながらご夫婦ともフルタイムの仕事をお持ちのため、日中作業は従業員及び実習生に任せています。ベトナム人のうち1名は現在4年目



▲ 搾乳牛舎(左奥)と乾乳牛舎(右手前)



▲ 育成牛舎

で、特定技能実習生として3年間の実習の後、さらに5年間の在日が認められています。松井牧場に来たばかりの時は日本語も酪農も分かりませんでした。読み書きの勉強からご家族とも積極的にコミュニケーションをとり、現在は運転免許も取得して休日は友人と出かけるなどプライベートも楽しんでいるそうです。作業についても繁殖や獣医との

やり取りなど重要部分を任せられ、松井さんも「頭が良く外交的」と非常に信頼されているようでした。外国人技能実習生の受け入れにあたっては以前に比べ監理団体が増えたことで、牧場の雰囲気にも合う実習生を見つけることができるようになったと言っています。お話を聞いていると非常に良好な関係を築いておられ、お互いに快適な環境で長期的に雇用すること、ご夫婦が作業に参加できない日中も安心して任せられるのだと感じました。最近は社長の僕の立場が弱くなってきたよ、と笑って言われていました。

2代目としての経営 規模拡大と共進会出品

入植の歴史を伺うと、お祖父様の代で岐阜県より集団入植、音更、本別、阿寒など開墾地を探して歩き、鶴居村へ入植したそうです。当時は農耕馬、じゃがいもがメインでしたが、お父様の代になり、20頭の木造牛舎を建設、バケットによる搾乳から本格的に酪農を開始し、昭和46年に36頭の鉄骨つなぎ牛舎とパイプライン設備を整備しました。松井さんご自身は釧路の普通科高校を

卒業後、ホクレンの実習牧場で2年間、その後カナダの牧場で1年間の実習を積んだ後、21歳でご実家に就農されました。ご本人によると高校までは牛や酪農にはさほど興味はなかったけれど、実習牧場での2年間の間に酪農の面白さに目覚めたとのこと。中でもめり込んだのは共進会だったそうです。カナダでの実習牧場は、搾乳牛43頭という海外にしては小規模な牧場である一方で日々世界中から視察者が訪れる有数の優良牛輩出牧場でした。そのため、1年間の実習の間に搾乳作業の他、牛舎清掃の習慣、毛刈りなどの技術も身に着けることができたそうです。帰国後、

就農されてしばらくは共進会にのめり込んでいましたが、お父様から牧場を引き継ぐにあたり、経営向上のため平成8年、16年にそれぞれ牛舎を増築し、現在の75頭規模のつなぎ牛舎となりました。



▲ 搾乳牛舎(対尻式つなぎ牛舎)



▲ 搾乳牛群とTMR飼料

松井さんが共進会で特に力を入れているのは未經産牛の出品です。共進会の魅力は、足腰が強く生産性の高い乳牛を追求することですが、それ以上に全道、全国と出品する機会ができることで、共進会仲間が増える

ることが何よりの楽しみだとおっしゃっていました。また、自然と飼養管理のレベルが向上するため、牛群全体のコンディションが良くなり、結果として高値で牛を売却することができるというメリットもあるそうです。

そう。

現在、松井牧場

には松井さんが長年かけてそろえてきた上質な牛群と、増設とともに大切に使用してきた施設があります。ご夫妻にお子さんはありませんが、松井牧場にはぜひ後継者をたてて末永く存続させたいとの思いから、新規就農者への譲渡を視野に入れています。3年前に鳥取県から受け入れた実習生が今年高校を卒業して鶴居村へ戻ってきたことで、将来の牧場譲渡も見据えて、大事に育てていきたいと考えています。



▲ トイピリカの入り口にある看板

地域初TMRセンターの設立
「トイ(土)畑+ピリカ(美しい・豊か)」
合同会社トイピリカは松井牧場を含めた近隣農家7戸で設立した地域初めてのTMRセンターで、平成30年9月に法人登記完了、令和2年8月よりTMRの製造・供給を開始しました。松井さんは同社の代表を務めています。
TMRセンターの構想は、農協の指導や道内でのセンターの設立が増えてきたことから、平成24年頃に持ち上がりました。家族経営が主体の

鶴居村の酪農家にとってセンターのメリットは魅力的で、当時は17戸の農家で設立に向けた勉強会を開始したそうですが、実際の立ち上げには至りませんでした。2年間の空白期間を経て地域の実情を見回すと、従業員不足による収穫作業の負担増加、高齢化に伴う将来的な農地の荒廃が予想されるなど、センターの必要性が再認識されました。そこで松井さんが代表となり近隣農家に声を



▲ トイピリカの飼料調整庫



▲ トイピリカのバンカーサイロ(24基備える)

かけたところ、現在の7戸が賛同し「トイピリカ」の設立に向けて決意を新たにしたそうです。しかし、地域に前例のないセンターの設立、それに伴う莫大な投資にあたり、規模や機械の選定、構成員の役割分担、運営など様々な内容について勉強と意見のすり合わせには数年間の時間

を要しました。7戸それぞれの規模や経営状況が違うため、参加に消極的になったり不満が出たりと言うことがあったそうですが、近隣同士であったことが幸いして離脱する農家を出さずに平成28年12月の設立検討会から約2年を経て、法人登記に至ることができました。松井さんご自身は不安になることがなかったのかと尋ねると、「僕は前に向かって進むしかないと思ってやってきた。それぞれの社長が新しい会社を作るのだから不平不満は想定内、大事なのは設立後の7戸の構成員の経営だからね」との力強い言葉が返ってきました。

令和2年度より操業を開始した同センターは今年で2年目を迎えています。初年度は天候の影響もあり十分納得のいく自給飼料とまではいきませんが、会社として定期的に個々の経営内容を確認、飼養管理のアドバイスを行うなど構成員への細やかな指導の甲斐もあり、センター始動後の構成員の生産量は増えているとのことでした。

現在センターの収穫作業は主に構成員7戸と従業員1名(先述の鳥取県出身の元実習生)が中心となつて

行い、TMRの調整は外部に委託しています。そのため収穫時期は変わらず忙しく、農家によってはセンター作業のほう負担が大きいと言う話も聞くそうですが、設立2年目、まずはできる限り余計なコストをかけず、餌を安く提供することが最重要と松井さんは冷静に考えています。構成員の平均年齢が40代と年齢的に作業が難しい構成員がいないことから、今は外部委託に頼る時期ではないと考えているそうです。

牧場は最大限、センターは最小限の利益で

酪農経営とセンター経営の違いを伺うと、「最大限の利益を出すのが酪農経営、最小限の利益を出すのがセンター経営」と言う答えが返ってきました。これは、トイピリカの目的は品質の良い安価な餌を供給すること、構成員である7戸の牧場が最大限の利益を得ること、であるからです。

動き始めたばかりのセンターには、700haと言う土地の集約、一括管理による草地更新の加速化、デントコーンの作付けなど、長期的に様々なメリットがあります。今後、

残念ながら地域との離農が進むことが予想される中、遊休農地を吸収して地域の景観を守ると言う使命も担っています。機械の購入や従業員の雇用と言った目先のメリットにとらわれず、5年後、10年後のセンターの在り方を語り合うことを大切にしています。また、今後増頭を予定している構成員もいることから、将来的には新規加入者も受け入れ現在の800頭から1,200頭を賄える規模に整備し、地域を守る重要な施設に育てたいと考えています。利益に対する考え方は違っても、安定した経営を将来にわたって続けたいと言う目標は松井牧場もトイピリカも一致しています。「うちの牧場は信頼できる従業員(実習生)がいるから大丈夫!センターはみんなの運命にかかっているから頑張らないと!」と、強いリーダーシップで何事も前向きに取り組まれている姿勢が印象的でした。

取材時(6月初旬)はトイピリカの収穫作業も始まっており非常にお忙しいところ、本取材に快くご協力くださり誠にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

大 阪
支所発Jミルク徳島が「こども食堂」に牛乳・乳製品を
無償提供

9月13日(月)、Jミルク徳島（原浅之会長、徳島県酪農業協同組合代表理事組合長）から、徳島こども食堂ネットワーク（佐伯雅子代表）へ乳飲料・バター等詰め合わせの贈呈式が行われました。

Jミルク徳島は、牛乳・乳製品の消費拡大と普及啓発を推進し、徳島県民の食生活の向上に資する取り組みを実施しており、その一環として今回、新型コロナウイルス感染症により人と人との繋がりが失われている子供たちを支援するため、県内の「こども食堂」へ牛乳・乳製品の無償提供事業を行うこととなりました。

事業内容は、令和3年9月18日から令和4年3月末までの期間で、県内の「こども食堂」（14箇所）へ乳飲料約1万5千本のほか、バター等の乳製品の配布となっています。

贈呈式は徳島県酪農業協同組合会議室において行われましたが、当日は、NHKのテレビ取材もあり、原代表理事組合長はやや緊張した面持ちで臨んでいらしかったです。（徳島県酪農業協同組合提供）

《参考》

Jミルク徳島は、県内の牛乳乳製品が酪農家から食卓に届くまでのミルクサプライチェーンを担う「酪農家」「乳業メーカー」「牛乳販売店」の関係7会員で構成されています。



原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先

皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒460-0008

名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階
tel. 052-209-5611

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

酪政連活動報告

日本酪農
政治連盟

令和3年8月

8/24

農林・食料戦略調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議（於 自由民主党本部）
佐藤委員長より令和4年度酪農関連対策・予算確保要請を行う。



▲ 要請を行う佐藤委員長

8/26

自由民主党酪政会総会（於 衆議院第2議員会館多目的会議室）
農林水産省より酪農をめぐる情勢について説明、
日本酪政連正副委員長より酪農関連対策について要請、意見交換を行った。



▲ 自由民主党酪政会 森英介会長挨拶



▲ 酪政会総会にて要請を行う佐藤委員長(左)と柴田副委員長(右)



酪政会総会終了後、中央委員会を開催。
令和4年度酪農関連対策・予算要請、第49回衆議院選挙の対応等について協議。
また、中央委員の一部交代及び常任顧問の交代について諮り、下記の通り承認された。

* 中央委員

- 渡邊 博氏（酪政連宮城県酪農農業協同組合支部 支部長）
- 臼井 勉氏（酪政連栃木県支部連合会 会長）
- 品川 文隆氏（群馬県酪農政治連盟 会長）
- 越川 定勝氏（酪政連千葉県支部 委員長）
- 小野 幾郎氏（大分県酪農政治連盟 委員長）
- 東 吉次郎氏（熊本県酪農政治連盟 委員長）
- 神谷 翔平氏（沖縄県酪農農業協同組合 代表理事組合長）

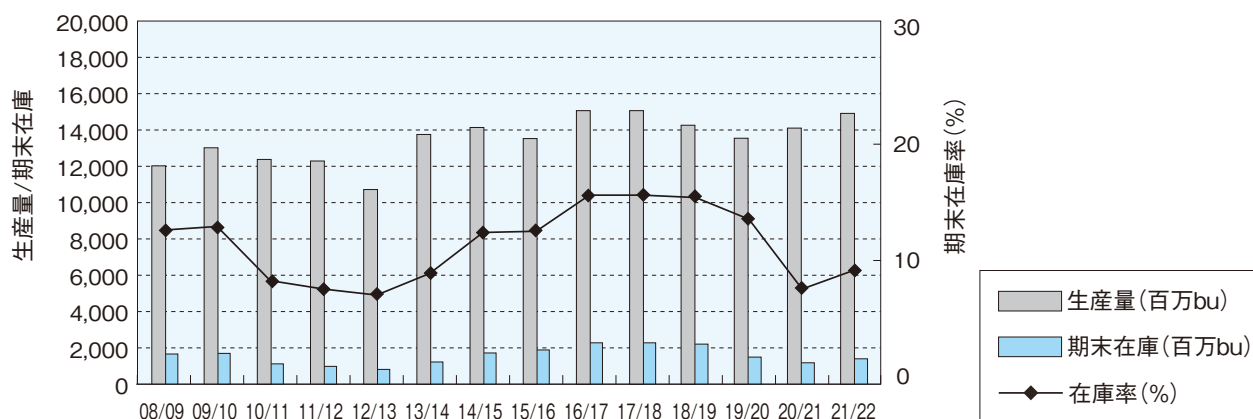
* 常任顧問

- 隈部 洋氏（全国酪農農業協同組合連合会 代表理事会長）

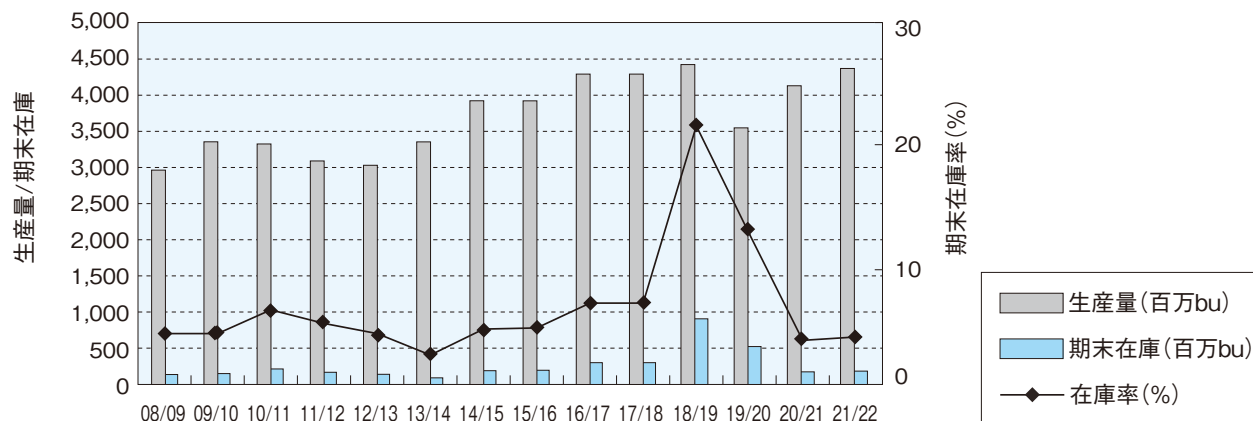


		20/21年産	21/22年産
9月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	90.8	93.3
	単 収(ブッシェル/エーカー)	172.0	176.3
	生 産 量(ブッシェル)	141億8,200万	149億9,600万
	需 要 量(ブッシェル)	149億4,000万	148億万
	期末在庫(ブッシェル)	11億8,700万	14億800万
	在 庫 率	7.95%	9.51%
トウモロコシ 相場動向	9月USDAでの新穀の生産量の上方修正がされたことや、米国のGULF地区においてハリケーンの被害があり、穀物輸出量が減少する懸念からシカゴ相場は弱含みに推移している。しかし、南米では生産量の下方修正が行われ引き続き世界全体の需給は逼迫していることから今後は底堅く推移する見込み。		
大豆粕相場動向	シカゴ大豆相場が緩やかに下落していることや、中国の飼料需要が豚肉価格の下落に伴い一服していることから輸入大豆粕価格は軟化しているものの、フレートの上昇に伴い相場は底堅く推移している。国産大豆粕はコロナの収束に向け、年末にかけて搾油量は増加する見通しとされているが、依然、予断を許さない状況にある。		
糟糠類	【一般フスマ】 小麦粉の生産が前年を若干下回って推移しており、引続きふすまの需給は逼迫している。		
	【グルテンフィード】 需要期に関わらず発生は前年を下回る見込みとなっている。中国産の輸入が順調で全体の需給は緩和傾向にあるものの、中国産の発生が減少しているため年末年始頃から需給は逼迫していく見通しとなっている。		
海上運賃	現在ブラジル産コーン、米国産大豆、黒海産穀物の船積がメインとなっている。メキシコ湾へのハリケーン直撃による輸出の停止が影響され相場は一時的に下がったが、その後輸出ターミナルの再稼働が見られると再び上昇へと転じている。また、小型バルク船によるコンテナ輸送の動きも始まっており、輸送量が増えればさらに相場が上昇する可能性もあることから注意したい。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移

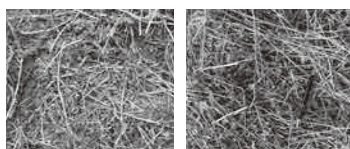




輸入粗飼料の情勢

令和3年9月

北米コンテナ船情勢	ロサンゼルス・ロングビーチ両港での混雑は再び悪化傾向にあります。年末商戦に向け両港への輸入量は最盛期を迎える一方で、デルタ株の感染拡大に伴い港湾労働者が不足し、荷役処理が追いつかず、現在沖合には44隻を超えるコンテナ本船が滞船しています。沖合での滞船日数は10日程度になっており運航スケジュールに遅延が出ています。また、北米全体で船腹予約が難しくなっています。背景としては中国から輸出される欧州及び北米向けの海上運賃上昇が続くなか、各船社、運賃の安い牧草よりも中国への空コンテナ回漕を優先していることが挙げられます。現地港湾当局の発表によると7月にロサンゼルス・ロングビーチ両港から出港したコンテナ船腹の75%を空コンテナが占めている状況です。今後年末年始に向け、さらに船腹予約取得が厳しくなることが予想されています。
ビートパルプ	【米国産】 21-22年産の収穫は、地域により差はあるものの例年より1～2週間遅い8月中下旬より順次開始されています。生育状況も地域差があり降雨量が潤沢にあった地域では例年以上の単収が見込める一方で、降雨の少ない地域では例年よりエーカー当たり3t前後、単収の減少が見込まれています。各産地の工場では製糖作業が開始されており、来年の5月頃まで続く見込みです。ビートの産地相場は、堅調な穀物相場を背景に依然として内需及び欧州やメキシコなど海外からの引き合いが強く、高値で取引されています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは、3番刈を終え、4番刈の収穫が開始されています。7月下旬から8月上旬に掛けて、産地周辺で山火事がありベースン全域が煙に覆われました。この影響で通常以上に圃場での乾燥に時間を要したことから3番刈は過乾燥気味の品質が多く見られています。また西海岸全域の早魃の影響で自給飼料が不足するアイダホ州やモンタナ州といった近隣州の酪農家および肥育農家が産地で旺盛に買い付けを行っており、上級品から低級品まで1番刈以上の価格で取引されており相場は上昇を続けています。 【オレゴン州】 オレゴン州南部クラマスフォールズでは2番刈の収穫作業が終了し、8月中旬から3番刈の収穫が開始されています。産地では厳しい早魃のなか、河川由来の農業用水使用が制限されていましたが、8月上旬に70日ぶりに解禁されています。この影響で3番刈の生育は持ち直しており、収量回復が期待されています。同州中部クリスマスバレーでは2番刈の収穫が終了しました。産地では1番刈に引き続き2番刈も収穫期において降雨被害に遭い、多くの雨当たり品が発生しています。オレゴン州の産地相場については他産地同様に、内需の酪農家が高成分品を求め、旺盛に買い付けを行っており、産地相場は堅調に推移しています。
チモシー	【米国産】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンとエレンズバーグでは2番刈が収穫されています。穀物相場が堅調なため、多くの生産者で1番刈の収穫後、換金性の高いトウモロコシや豆類へ転作しており、2番刈の生産量は前年比で大幅に減少する見込みです。産地相場については発生量が減少するなか、2番刈は米国内のペット及び馬糧向けに引き合いが強く、引き続き高値で取引が行われています。 【カナダ産】 アルバータ州南部レスブリッジでは1番刈の収穫を終え、2番刈が収穫されています。1番刈は天候にも恵まれ、上級品中心の発生となりました。一方、6月に産地を襲った熱波の影響で、単収が減少しており生産量は例年比で30%程度減少しています。2番刈の収穫は開始されたばかりですが、収穫前の圃場の状態は良好で、上級品の発生が期待されています。同州中部のクレモナ地区でも1番刈に収穫を終えています。多くの圃場で適期となる7月下旬から8月上旬にかけて収穫が行われ、天候にも恵まれたため、中級品以上の品質が多く生産されています。産地相場はアルバータ州全体で熱波の影響を受け自給飼料不足しており、内需を中心に旺盛に取引されています。このため、産地相場は堅調に推移しており、特に発生量の少ない下級品の相場が大幅に上昇しています。
スーダングラス	主産地インペリアルバレーでは、2番刈の収穫が終盤を迎えています。8月中旬と9月上旬に降雨があったため、当時収穫中であったスーダンにおいて雨当たり被害が発生しています。このため、中級品から低級品の発生量が例年に比べ大きく減少しています。一部輸出業者によると21年産の中級品から下級品は作付面積減少に加え、今回の降雨の影響で生産量は例年の50%程度になると言われています。今回の降雨を受け、在庫を確保したい輸出業者及び自給飼料不足の内需の間で旺盛に買い付けが行われているため、産地価格は一段と上昇しています。輸出業者によってはこのような状況下、中級品以下のグレードを十分に確保できず、日本の各顧客に対し出荷制限を設ける動きも見られます。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 産地では3番刈の収穫が終盤を迎えており、生産者によっては4番刈の収穫を開始しています。スーダンで多くの降雨被害をもたらした8月中旬の降雨ですが、クレイングラスは幸い、多くの圃場で収穫前であったため、降雨被害を回避することができました。一方、3番刈の作況は高温多湿のなか収穫されたため、茎が固く、色目のばやけた品質が目立ち、低級品が多く発生しています。産地ではデュラム小麦の相場が急騰していることや肥料代を中心に生産コストが上昇しているため、生産者によっては4番刈で収穫を終え22年産の生産に向け転作準備を行う動きがあります。産地ではスーダンやアルファルファといった牧草の相場が上昇するなか、クレイングラスが比較的に手ごろであったこともあり、国内外からの引き合いが増えており、産地相場は上昇傾向にあります。
ストロー類	主産地オレゴン州ウィラメットバレーでは、21年産のストロー類の収穫作業は終了しています。早魃の影響で例年よりも単収が大きく減少しましたが品質は良好です。ペレアル種のライグラスストローは、作付面積と単収の減少から生産量も例年に比べ減少することが見込まれていることから、産地相場は堅調に推移しています。
オーツヘイ	【西豪州】 21年産は多くの地域で例年以上の降雨量を記録しています。一部では大雨の影響で、水浸しになった圃場も発生しています。今後の天候にもよりますが、西豪州では例年以上の単収になることが予想されています。 【南豪州】 当初、降雨が少なく生育が遅れていましたが、7月～8月にかけて降雨があり、持ち直しています。現時点では単収は例年並みになることが予想されています。 【東豪州】 7月～8月に降雨があった影響で、地域によって生育状況にバラつきがあるものの、東豪州全体として例年並みの単収を見込んでいます。
豪州海運情勢について	シンガポールや中国など豪州から日本向けの主要乗継港の混雑は深刻な状況です。このため乗継港で長期間滞留し日本への入船スケジュールが大幅に遅延するケースが増えていきます。一部の船社では、シンガポール及び中国各港の混雑が解消されるまで、豪州から日本向けの船腹予約の受付を中止しています。加えて、空コンテナを早期に中国に回漕するため、日本に輸入された実入りのコンテナが、空コンテナとして返却が確認できるまで次の船腹予約を受け付けられないという船社も出ており、豪州でも船腹予約が難しくなっている状況です。



▲ クラマスフォールズ産
2番刈アルファルファ 8月中旬撮影



▲ 21年産カナダ
レスブリッジ産
1番刈チモシー



▲ 降雨直後の産地インペリアルバレー：
9月上旬撮影

初乳粉末製品

全酪連の牛用混合飼料

GOOD START

グッドスタート プレミアム

PREMIUM

内容量 250g/袋

生まれたての愛牛を守る手助けをします!

出生24時間以内にIgG量として150~200gを給与することが重要です!

※出生時体重に応じて、IgG必要量は異なります。

(例) 出生時体重45kgであれば、本製品3袋給与を推奨(ホルスタイン牛)。

※IgGとは免疫グロブリンの主成分です。

使用用途

代用初乳
として!

初乳サプリ
として!

和牛子牛
にも!

6つの特長!

- 1 免疫グロブリン70g/袋以上!
- 2 サラッと溶けやすい!
- 3 機能性に優れた全卵粉末を配合!
- 4 エネルギー源となる吸収効率の高い中鎖脂肪酸を配合!
- 5 子牛1日あたりの要求量を上回るビタミン、ミネラルを配合!
- 6 お腹の調子を整える乳酸菌、ビフィズス菌を配合!



【包装形態】 アルミバック1袋250g(10袋入り/1箱)

保存上の 注意事項

- 高温多湿の場所・直射日光の当たる場所での保管は避けてください。
- 開封後長期間保存すると、品質が低下することがあります。

開封後はなるべく早く使い切ってください。

関連製品

全卵粉末、乳酸菌、ビフィズス菌に特化した

グロウパワー

も推奨



お問い合わせ先



全国酪農業協同組合連合会

札幌支所 011(241)0765
釧路事務所 0154(52)1232
帯広事務所 0155(37)6051
道北事務所 01654(2)2368
根室駐在員事務所 01537(6)1877

仙台支所 022(221)5381
北東北事務所 019(688)7143
東京支所 03(5931)8011
北関東事務所 027(226)6851
栃木事務所 028(689)2871

名古屋支所 052(209)5611
大阪支所 06(6305)4196
中四国事務所 0868(54)7469
近畿事務所 0794(62)5441
三次事務所 0824(68)2133

福岡支所 092(431)8111
南九州事務所 0986(62)0006



価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	33~43	▲	札幌管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で100.8%、累計で97.5%、苫小牧管内月計で100.2%、累計で98.6%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月分娩が中心となります。9月の同地域の管内乳牛市場の初妊牛相場は、やや強含みでの相場展開を見せましたが、他地域での初妊牛資源が豊富なこともあり弱含みに推移すると思われます。出回り頭数は少ない地域ではありますが、この地域は優良牛や高能力牛が出てくる地域ですので、ご希望がございましたらお早めにお問合せください。
	初妊牛	60~70	▼	
	経産牛	40~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	32~43	▲	根釧管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で103.2%、累計で101.5%、中標津管内月計で105.2%、累計で103.7%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月分娩が中心となります。9月管内乳牛市場が弱含みで推移したことや、資源状況が豊富なことから、庭先購買価格も同様にやや弱含みとなるものと思われます。腹別では引き続き雌雄選別腹の資源が多く、特に弱含みで推移しています。和牛受精卵移植腹も他の腹と同様にやや弱含みで推移していますが、本牛・受精卵ともに上クラスのもの85~95万円となると予測されます。初妊牛の相場が弱いことなどが影響し、育成牛や経産牛も同様にやや弱含みで推移するものと思われます。
	初妊牛	63~72	▲	
	経産牛	40~45	▲	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	35~45	▲	帯広管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で105.1%、累計で104.3%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月分娩が中心となります。9月管内乳牛市場の初妊牛相場は都府県での残暑の影響による導入控えなどから、やや弱含みに推移しました。10月については引き続き、資源が豊富な状況が続いておりますので、庭先相場もやや弱含みと予測されます。和牛受精卵移植腹につきましても、価格はやや弱含みに推移すると予測されます。腹別の資源状況につきましては、当管内は育成専門牧場が多いためF1腹が多い傾向にあります。雌雄選別腹については、減少傾向ではありますが、頭数は確保できる状況となっております。
	初妊牛	62~72	▲	
	経産牛	40~50	▲	
道北管内	育成牛(10-12月令)	32~42	▲	道北管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で101.2%、累計で99.1%、北見管内では月計で104.5%、累計で102.7%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月分娩が中心となります。資源頭数が増えていること、道内・都府県ともに需要が落ち着き、管内の乳牛市場が弱含みに推移したため、庭先購買価格も弱含みになると予測されます。その中でも雌雄選別腹の資源頭数がやや潤沢になっていると思われます。育成牛は前年夏季生まれが中心になること、初妊牛相場が弱含みのため、育成牛相場も弱含みで推移すると思われます。産次数の少ない経産牛の需要は堅調ですが、初妊牛相場の影響もあり、やや弱含みで推移するものと思われます。
	初妊牛	58~68	▼	
	経産牛	38~48	▲	
道内総括	育成牛(10-12月令)	32~42	▲	道内の9月中旬までの生乳生産量前年比は104.0%、累計で102.5%の実績となっております。道内では干ばつの影響から2番草・デントコーンの収量が危惧される地域もありますが、生乳生産においては猛暑から回復傾向となっています。12月分娩中心となる10月相場については、気候や牛乳の需給情勢などの影響を受け道内・都府県での導入意欲は一時的に緩和され、各地域相場を大きく下げております。資源は依然として豊富であるため、今後の相場動向として値上げ要因は少なく、やや弱含みで推移するものと見込まれます。今後、年末に向けて比較的導入しやすい価格帯となると予測されるため、購買計画がございましたら弊社担当者までお早目にご連絡頂きたいと思っております。今後とも庭先選購買を中心に優良な搾乳素牛を供給致しますので宜しくお願い致します。
	初妊牛	62~72	▲	
	経産牛	40~50	→	

今月の表紙



今月の表紙は「第11回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「みんなでえさやり」(北海道富樫瞳氏 撮影)です。

編集後記

- 9月30日、およそ半年ぶりに緊急事態宣言、まん延防止措置が全地域で解除されました。政府からは今後の日常生活回復に向けた行動制限緩和についての発表などもでてきておりますが、感染対策をしっかりと行いながら、再度の緊急事態宣言発令とならないよう気を付けたいと思います。朝晩は冷え込む季節となりました。皆様、ご自愛ください。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和3年10月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 10月号 No.673

● 編集・発行人 工藤文彦

● 発行 全国酪農協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介



まえからみたうし

室場小学校 1年（中部） 石川 陽菜

今月の入賞作品は…

室場小学校 1年（中部）の石川 陽菜さんの作品です。

力強いタッチでクレヨンを使い牛さんを正面から堂々と描いています。大きくて迫力のある牛さんの存在感とは裏腹に、見開いた瞳や出したベロがキュートですね。まるで踊っているようにも見える牛さんの足の動きがコミカルで楽しい感じに仕上がっています。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第47回らくのうこどもギャラリー」で全国198点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議